

週刊 タバコの正体

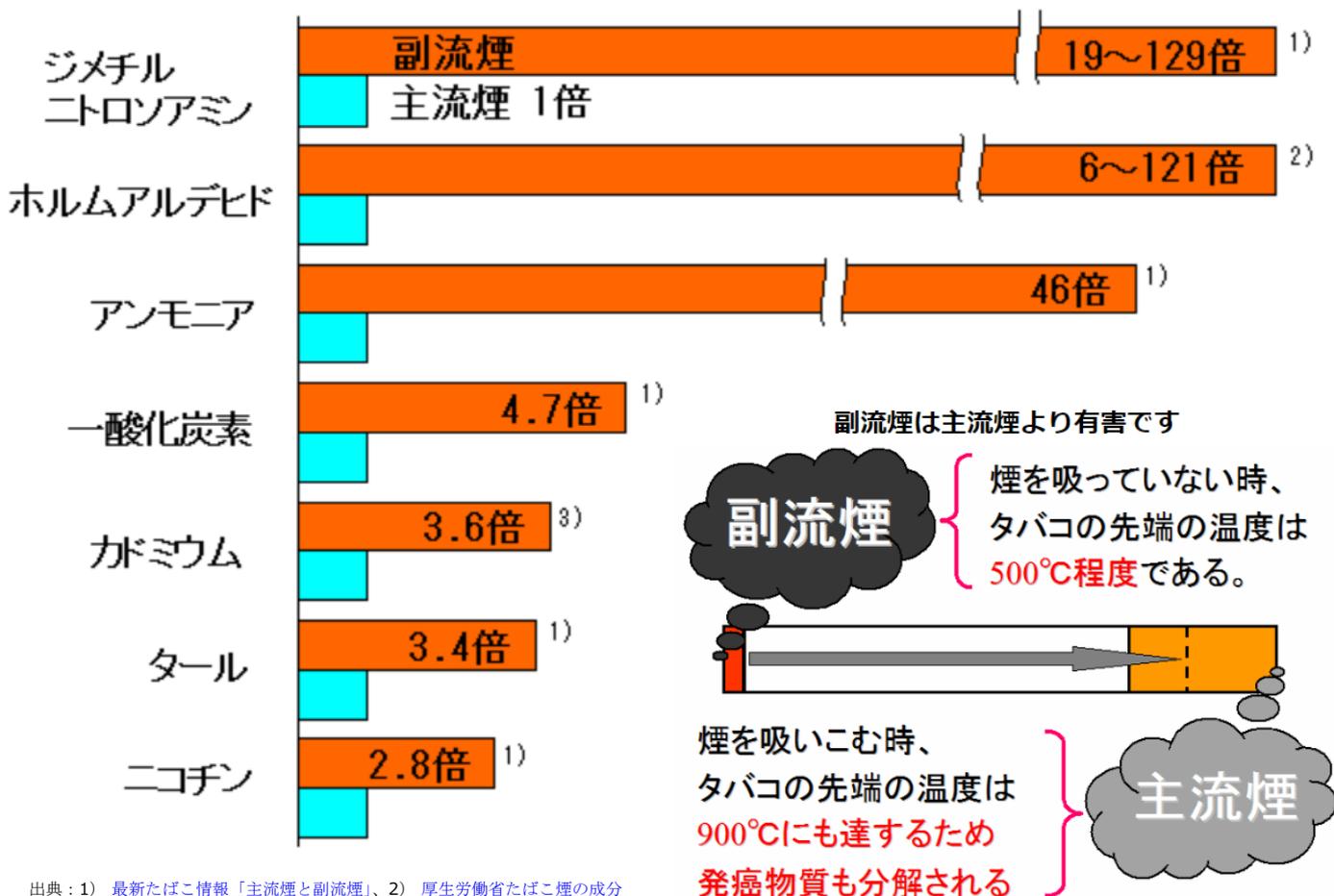
タバコに火をつけて消えるまでに喫煙者が吸い込むのは1, 2分おきに数秒間で、残りの多くの時間はゆらゆらとタバコの先から無駄に煙が立ちのぼっていますよね。タバコに火がついている間、この煙はずっとあたりに漂い続けるわけです。

喫煙者が吸い込む煙を“主流煙”、火の付いた先端から立ちのぼる煙を“副流煙”と呼びますが、周りの人が煙たくて迷惑するのが副流煙です。じつは、このゆらゆら立ちのぼる煙は想像以上に有害な事を知っていますか。グラフにあるようにジメチルニトロソアミンなど発がん性のある物質の濃度が主流煙より100倍以上も高いのです。うっすらとした煙がそんなに危険だなんてビックリしますが、これは下図のとおり副流煙は主流煙に比べ燃焼温度が低いため有害成分が多くなるのです。

「へー、そうなんや。だったら近くで吸わないで欲しい」と思いますよね。だから、タバコは他人に煙を吸わせないような場所、つまり喫煙場所でしか吸えないのです。

産業デザイン科 奥田恭久

たばこ煙は副流煙の方が有害



出典：1) 最新たばこ情報「主流煙と副流煙」、2) 厚生労働省たばこ煙の成分分析について、3) 厚生省編喫煙の生理・薬理：喫煙と健康；48：1992